

先進の道路サービスへ

阪神高速道路株式会社 中期経営計画

(平成18年度～平成22年度)

平成21年5月 改定版



平成18年4月
(平成21年5月一部改定)
阪神高速道路株式会社

1. はじめに

阪神高速道路株式会社は、民営化の本格始動にあたり「先進の道路サービスへ」という企業理念のもと、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、引き続き関西の暮らしや経済の発展に貢献していきたいと考えており、この度、平成18年度から平成22年度を計画期間とする中期経営計画を定めました。中期経営計画の策定にあたっては、今般の民営化の3つの目的である「①債務の確実な返済、②必要な道路を少ない国民負担で建設、③弾力的な料金設定や多様なサービスの提供」を実現することに留意しました。

第一に、「債務の確実な返済」が図られるよう、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現するとともに、関西の暮らしや経済の発展に貢献し、より多くのお客さまにご利用いただくことにより、計画した収入を確保します。また、効率的な経営による強固な財務体質を築くとともに無駄な支出を無くします。

第二に、「必要な道路を少ない国民負担で建設」することを実現するため、建設する路線を予定した工期と予算で完成します。そのため、国や地方自治体及び地域の皆さまのご協力を頂きながら効率的な投資に努めます。また、建設コストを削減するため契約手法の見直しや技術革新にも取り組みます。

第三に、「弾力的な料金設定や多様なサービスの提供」を実現するため、ETCの普及促進に努めるとともに、『生活対策』（平成20年10月30日新たな経済対策に関する政府・与党会議、経済対策閣僚会議合同会議）における重点的な引下げの後に、上限料金を抑えつつ、関係機関と十分に協議しながら段階的な対距離料金を検討していきます。また、会社の保有する資産や技術力を活用した新たな事業にも取り組んでいきます。

そして、これらの取り組みがお客さまや地域の皆さまにご理解頂けるよう、高い企業倫理を持ち、沿道環境などに配慮するとともに社会活動にも積極的に参画し、幅広いコミュニケーションと親しみやすい広報活動に努めます。

この中期経営計画は、民営化の本格始動の初年度から5年間の目標と具体的な取り組みを取りまとめた当社の最初の中期的な計画です。この中期経営計画の取り組みを確実に実行していくことによって、当社の企業理念の達成に向けた歩みを着実に進めてまいります。

2. 企業理念、経営方針

(1) 企業理念

先進の道路サービスへ

阪神高速は、
安全・安心・快適なネットワークを通じて
お客さまの満足を実現し、
関西のくらしや経済の発展に貢献します。

(2) 経営方針

阪神高速は、お客さまや地域とのコミュニケーションを大切にします。
阪神高速は、公正で透明な経営を維持し、健全な発展を目指します。
阪神高速は、社会の期待に応えるため、迅速・的確・積極的に行動します。

(3) 中期経営計画における目標

【道路事業】

○新規完成予定延長		11.9km
		〔 神戸山手線1.8km 新十条通2.7km、油小路線7.4km 〕
○料金収入	平成22年度	約1,860億円
○貸付料支払	平成18～22年度計	約7,150億円
○耐震補強工事		100%

【関連事業】(連結ベース)

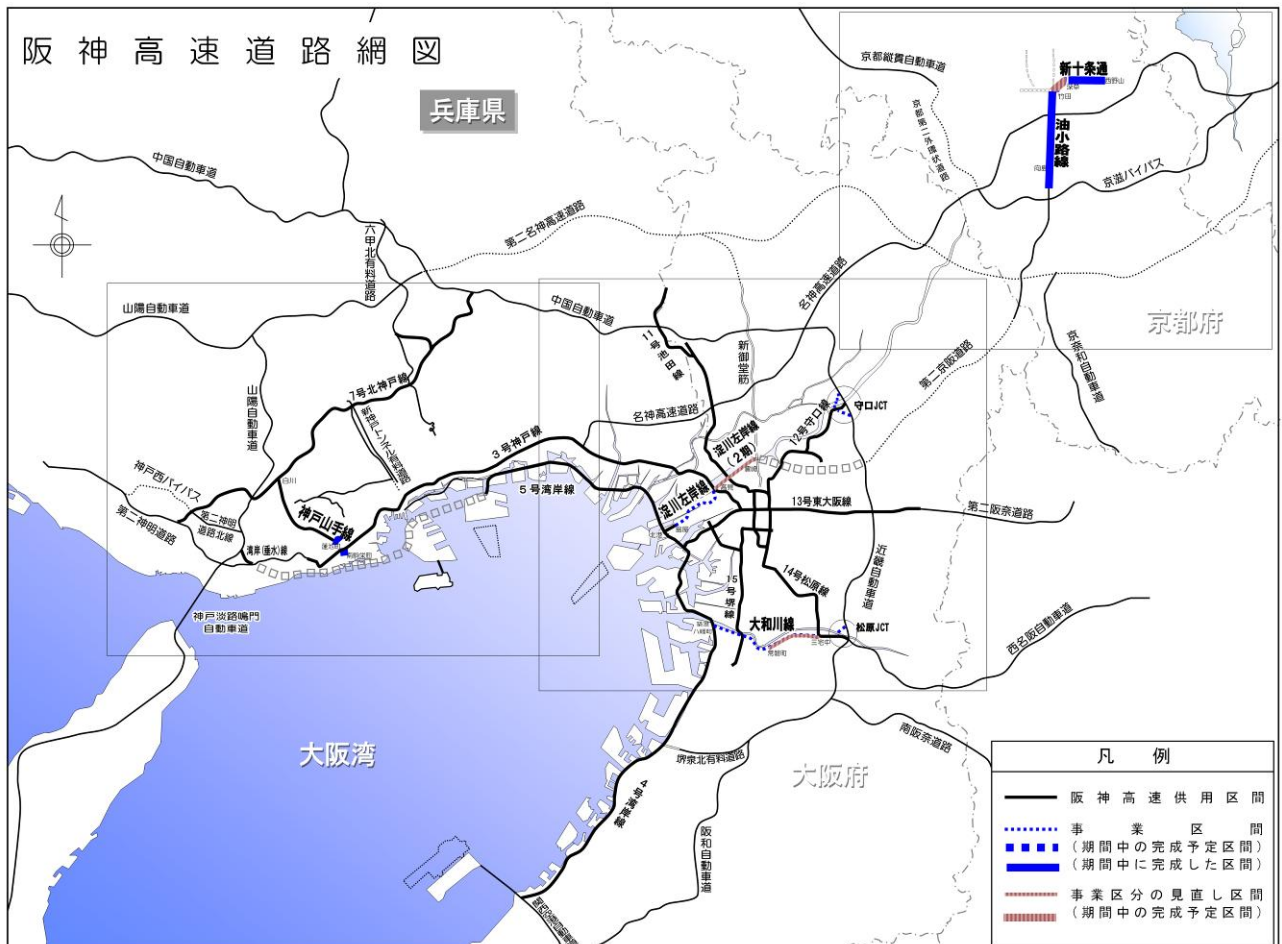
○売上高	平成22年度	30億円
○当期利益	平成22年度	3.0億円

3. 中期経営計画(平成 18 年度～平成 22 年度)

(1)関西都市圏の高速道路ネットワークの整備

関西のくらしや経済の発展に寄与する道路ネットワークを着実に整備します。

- ① 工程管理や事業費管理を徹底し、安全対策、沿道環境対策などを行いながら、計画的にネットワークを整備します。
- ② 技術革新などの創意工夫により、環境負荷の低減や省エネルギー・省資源への配慮などを行いながら、建設コストの削減に努めます。
- ③ さらに、関西のくらしを豊かにするために必要な道路ネットワークについて調査研究を進めます。
 - ・大阪地区 大阪都市再生環状道路の一部を形成する淀川左岸線延伸部など
既存の道路ネットワークの効率化を図るジャンクションなど
 - ・兵庫地区 大阪湾岸道路西伸部など
 - ・京都地区 京都高速道路、既存の道路ネットワークの効率化を図るジャンクションなど



大阪地区

大阪地区では、都心環状線に集中する通過交通による渋滞を解消し、社会・経済活動の円滑な流れを確保することにより都市の再生に資する大阪都市再生環状道路の一部である淀川左岸線、大和川線の2路線の整備を推進します。

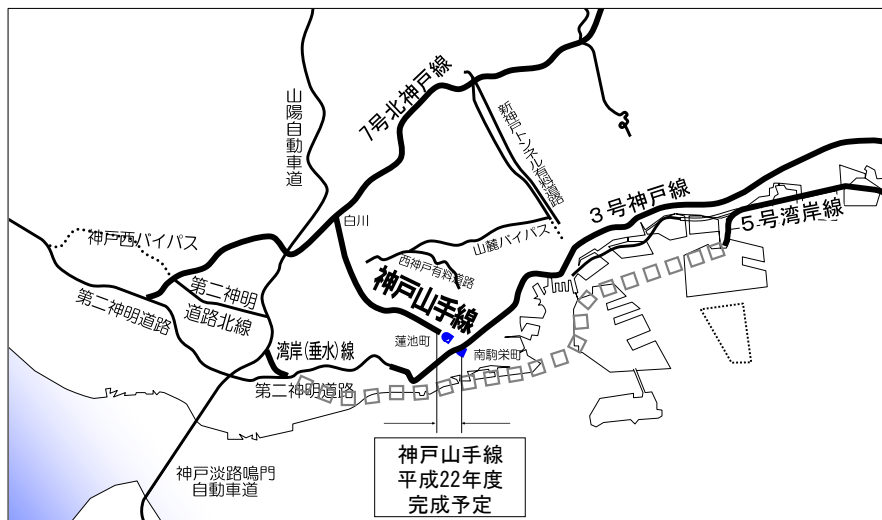
- 大和川線(堺市堺区築港八幡町～同市北区常磐町);平成26年度の完成に向けて用地買収を完了させるとともに、全線にわたり工事に着手する。
- 大和川線(堺市北区常磐町～松原市三宅中);平成26年度(一部平成24年度)の完成に向けて事業の進捗を図る(大阪府・堺市の事業との合併施行を導入)。
- 淀川左岸線(大阪市此花区島屋～同区高見);平成24年度の完成に向けて全線にわたり工事の推進を図る。
- 淀川左岸線2期(大阪市此花区高見～北区豊崎);平成32年度の完成に向けて事業の進捗を図る(大阪市の事業との合併施行を導入)。
- 守口ジャンクション;平成25年度の完成に向け事業の進捗を図る。
- 松原ジャンクション;大和川線とともに平成26年度に完成させるべく事業の進捗を図る。



兵庫地区

兵庫地区では、災害に強い道路ネットワークの充実を図るため、31号神戸山手線と3号神戸線とを接続します。

○神戸山手線(神戸市長田区南駒栄町～同区蓮池町);3号神戸線との接続までを平成22年度に完成。



京都地区

京都地区では、京都市内の渋滞を緩和する新十条通及び油小路線の一部区間で営業を開始し、平成22年度の全線完成を目指します。

○新十条通(京都市山科区西野山～伏見区深草);平成20年5月に完成。

○油小路線(京都市伏見区竹田～同区向島);平成20年1月に完成。

○油小路線(京都市伏見区深草～同区竹田);平成22年度に完成(京都市の事業との合併施行を導入)。



(2)お客さまの期待に応える高速道路の管理運営

渋滞対策や計画的な維持管理などに努め、安全、安心、快適なネットワークを提供します。

(安全、安心なネットワークの実現)

- ① 交通量や各路線の特性に応じた巡回・点検など、効果的な管理を実施します。
- ② 災害に強いネットワークを提供するため、長大橋梁を含め既存の道路構造物の耐震補強を完了します。
- ③ 「交通安全対策アクションプログラム」を策定し、カーブ区間や分合流区間及び本線料金所での事故のほか、落下物による事故に対する交通安全対策に取り組みます。また、関係機関と連携し、重量違反車両の排除にも努めます。

(快適なネットワークの実現)

- ④ 「新渋滞対策アクションプログラム」を策定し、路線やジャンクションの建設などのネットワーク整備を着実に進めるとともに、次のような短期的な施策について可能なものから順次実施します。
 - ・車線運用の改善などによる対策
 - ・交通管制による対策
 - ・ETCを活用した料金施策による対策
 - ・事故、故障車による渋滞への対策
 - ・工事による渋滞への対策
- ⑤ 「PA改善アクションプラン」を策定し、トイレの清潔化や休憩所の改修、笑顔でお出迎えなど「きれい・あんしん(ハード)」「やすらぎ(ソフト)」「ぬくもり(ヒューマン)」それぞれの面について、改善に向け取り組みます。

また、阪神高速道路をご利用中に一旦高速道路を降りて、高速道路の外にある沿道の施設をPAと同じようにご利用いただける「路外パーキング」のサービスにも取り組みます。

(利用していただきやすい料金)

- ⑥ より公平かつ、使い易い料金制度を実現するため、「生活対策」(平成20年10月30日新たな経済対策に関する政府・与党会議、経済対策閣僚会議合同会議)における重点的な引下げの後に、上限料金を抑えつつ、関係機関と十分に協議しながら段階的な対距離料金を検討していきます。また、企画割引等により多様で弾力的な料金を設定し、より多くのお客さまにご利用いただけるよう努めることにより、関西圏の経済活性化の支援となるよう取り組みます。
- ⑦ 「弾力的な料金設定や多様なサービスの提供」を実現するためETCの普及促進に努めます。そのため、ETC車を対象としたマイレージサービスの実施や料金割引の社会実験などを展開します。

(お客さま満足(CS)の向上)

- ⑧ お客さま満足度調査、お客さまの声の収集・分析等を踏まえて、阪神高速グループ全体でCS向上施策を検討・実施するとともに、その見える化の実施によって、お客さま満足の向上を図ります。

- ⑨ お客さまのニーズにきめ細かく対応するため、新技術も活用してわかりやすい道路標識や道路交通情報提供の迅速化、多様化および高度化の実現に取り組みます。

(3)新たな事業の取組み

人・まち・道路から生まれるさまざまなニーズに応えるサービスの提供を目指して新規事業の取組みを推進します。

(関連事業の拡充)

- ①地域における駐車場不足や路上駐車状況を改善し、まちづくりに貢献する高架下駐車場事業を展開します。
- ②パーキングエリアのレストランの施設改修やメニューの充実を図るなど、「便利で快適なパーキングエリア」を実感していただけるサービスを展開します。
- ③保有不動産を活用して店舗、各種施設など地域のニーズに応える事業を展開します。
- ④提携店舗数の拡大や各種サービスの提供など、阪神高速ブランドの「スルーウェイカード」の利便性を一層高めていきます。

(新たな関連事業への取組み)

- ⑤長年にわたり都市高速道路を建設・管理してきたノウハウを活かし、阪神高速以外の道路構造物の設計・施工・維持管理をサポートするエンジニアリング事業を展開します。
- ⑥カスタマイズされた道路交通情報を提供するなど、道路をより便利に楽しく利用いただくための情報発信事業を展開します。
- ⑦阪神高速道路が持つ様々な媒体を商業広告に活用していきます。
- ⑧駐車場などの施設へのスムーズな入出庫管理や料金決済などにETCを利用できる「まちかどeサービス」を展開します。

(4)効率的な経営による強固な財務体質

効率性の向上やコスト削減を図るなど、当社の業務全般にわたる生産性の向上を進め、強固な財務体質を築きます。

- ① 経営の効率化やコスト削減に取り組むとともに、全社的な「経営計画・評価制度」の展開など経営管理体制の強化を進め、債務の確実な返済を図ります。
- ② 生産性の高い経営と持続的発展が可能な企業風土を目指し、次の事柄に取り組みます。
 - i) 機動的で効率的な組織編成と人員配置を推進します。
 - ii) 生産性向上、組織活性化に資する人材の開発・育成と人事評価・給与などに関する新たな人事制度を導入します。
 - iii) 全社員からの改革提案を基にした業務改善運動を推進し、生産性の向上およびコスト削減を図ります。
 - iv) 経営の一層の効率化のため、グループ経営体制を確立します。
 - v) 防災・危機管理体制のほか、経営上の危機管理体制を強化します。
- ③ 効率的な投資につながる機動的かつ安定的な資金調達のため、調達方法を多様化します。
- ④ 新技術・新工法について積極的に研究を進めるとともに、総合評価方式を活用した大規模一括発注などにより、効率性の向上やコスト削減を図ります。
- ⑤ 効率的で長期的視野に立った維持管理を行うため、以下の事柄に取り組みます。
 - ・構造物のライフサイクルコストを考慮した維持管理手法(ブリッジマネジメントシステム)の導入。
 - ・大規模補修計画を策定し、維持管理コストを長期的に平準化および低減。
 - ・効率的な維持管理体制を確立し、業務の効率化とコスト縮減により生産性を向上。(注)ブリッジマネジメントシステム: 橋梁・高架構造物の最適な中長期の予算、補修計画の策定を支援するシステム
- ⑥ ETCの普及および業務の効率化などにより料金收受業務の合理化を進めます。
- ⑦ 出資者、本来道路管理者などとの間に、自立と信頼に基づいた適切なパートナーシップを構築します。

(5)社会的責任の遂行と社会貢献活動

企業市民としての社会的責任を果たすとともに、幅広く社会貢献活動を実施していきます。
また、様々な媒体を活用して地域の皆さまとの幅広いコミュニケーション活動を推進します。

- ① 全社員のコンプライアンス意識を徹底し、高い企業倫理を確立します。
- ② 地球温暖化対策として、省資源・省エネルギー・資源のリサイクルなどに積極的に取り組みます。
- ③ 震災の記録と復旧技術の承継、建設技術に係る国際協力、交通安全の啓発などの活動を展開します。
- ④ 建造物の美装化やライトアップなどによる美しい都市景観の整備および沿道環境対策などにより、地域の皆さまに親しまれる道路環境づくりに努めます。
- ⑤ 阪神高速道路周辺の清掃・美化活動にグループ会社とともに取り組んでいきます。
- ⑥ 建設事業の内容や進捗状況について、インターネットや工事情報館などの「場」を拡充し、建設路線の地域の皆さまとのコミュニケーションを促進します。
- ⑦ 広範な広報媒体を活用した積極的な広報活動により、透明性の高い事業運営に努めるとともに、インターネットの活用などによりコミュニケーションの場を拡充します。